

和泉葛城山の昆虫（2008年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

標高 858m の和泉葛城山の山頂付近は大阪府と和歌山県にまたがり、国の天然記念物に指定されている天然ブナ林は主に稜線から北斜面の大阪府側に残されている。この地域の昆虫相は特色のあるものを含み、貝塚市全体の昆虫相の豊かさに大きく貢献している（黒子、1997、1998、2000、2001、2002；保田ほか、2003；松下、2009、など）。しかしながら、温暖化が進行して動植物が影響を受ける程度は、移動による逃げ場所が限られている分、おそらくこの地域が貝塚市内で最大であると思われる。従って、昆虫相の変化に関して定量的な調査が継続して行われることが望ましい。来年度以降に定期的な調査を始めるにあたり、本年度は年数回の予備的な調査を実施することとした。

調査方法

2008年7月10日、7月30日、9月10日、10月9日の4回、雨でない日を選んで、現地調査を行った。和泉葛城山山頂付近（標高 830～858m：MC51354314-15：図1）を約3時間かけて歩き回り、目視により任意採集を行った。目視により同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、貝塚市立自然遊学館に標本のない種および近年に記録のない種に限り少数個体を採集し、当館の所蔵標本とした。



図1. 山頂付近のブナ林 2008.10.9

結果および考察

4回の調査で確認した昆虫は10目60科161種である（表1）。目ごとの種数はトンボ目3種、バッタ目17種、カマキリ目1種、ナナフシ目1種、チャタテムシ目1種、カメムシ目44種、コウチュウ目35種、ハエ目14種、チョウ目26種、ハチ目19種であった。以下、主な目について、簡単な解説を行った。

バッタ目

ヒメクサキリ（図2）は自然遊学館の調査としては貝塚市初記録となる種である。9月10日に採集したのは1♂のみであるが、その他1♀を確認した。また、10月9日にも1♂2♀を確認した。展望台から駐車場にかけての草地に広く分布しているものと考えられた。カヤコオロギ（図3）は9月10日に2♀を採集した。当館の所蔵標本としては、1992年9月12日の加納康嗣氏による1♂2♀の採集以来の記録となった。

カメムシ目

大阪府レッドデータブックの指定種は、準絶滅危惧のエゾゼミとテングオオヨコバイの2種が確認された。エゾゼミは7月30日に弱って木道の棧に止まっている1♀を採集した(図4)。当館の所蔵個体数は少ないが、毎年、鳴き声は確認されている。その他、9月10日に羽化殻を1個採集した。テングオオヨコバイは7月10日に1個体を確認した。図5に示したツノアオカメムシは山地性で、当館の所蔵標本になかった種である。

コウチュウ目

大阪府レッドデータブックの指定種は、準絶滅危惧のオニクワガタ1♀を9月10日に採集した(図6)。当館に所蔵されている貝塚産オニクワガタ7個体はすべて♂であり、♀成虫の標本は初めてのものである。10月9日に採集されたハスジゾウムシは和歌山県レッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

当館の所蔵標本になかったコルリアトキリゾウムシは外来種である。7月30日に2個体採集し、澤田義弘氏に同定していただいた。これまで個人的には和泉市の信太山において、2005年4月6日に1個体を採集したことがある。

チョウ目

今回の調査では特筆すべき種は確認されなかった。図7は10月9日に採集したアサギマダラである。その他、カラスアゲハを7月30日に確認した。ジャノメチョウは貝塚市内での確認例のほとんどは、和泉葛城山の山頂付近である。



図2. ヒメクサキリ 2008.9.10



図3. カヤコオロギ 2008.9.10



図4. エゾゼミ 2008.7.30



図5. ツノアオカメムシ 2008.7.10



図6. オニクワガタ 2008.9.10



図7. アサギマダラ 2008.10.9

表1-1. 和泉葛城山山頂付近において2008年7月から10月にかけて確認された昆虫のリスト1

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	7月10日	7月30日	9月10日	10月9日		
トンボ目	トンボ科	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>	○	○				
		タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>			○			
バッタ目	コロギス科	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	○	○	○			
		ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>	○					
	カマドウマ科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>				△		
		キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		鳴			
	キリギリス		<i>Gampsocleis buergeri</i>		鳴	鳴			
	ヒメクサキリ		<i>Ruspolia dubia</i>			○	○		
	ツユムシ科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>			△○	○		
	コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>			○	○		
	マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>			鳴	○		
		カヤコオロギ	<i>Euscirtus japonicus</i>			○			
	ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>		鳴		鳴		
		シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>			鳴	○鳴		
		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>			鳴	鳴		
	ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>		○				
		バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		○	○	○	
	ナキイナゴ		<i>Mongolotettix japonicus</i>	○	○	○			
	ツマグロバッタ		<i>Stethophyma magister</i>		○	○			
	ヒロバネヒナバッタ		<i>Stenobothrus fumatus</i>			○			
	オオカマキリ		<i>Tenodera aridifolia</i>	△	△	△○	○		
ナナフシ目	ナナフシ科	エダナナフシ			○				
チャタテムシ目	チャタテ科	スジチャタテ			○				
カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	鳴					
		エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>		○鳴				
		ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>			鳴			
		ニイニゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>		鳴				
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>			鳴			
		ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>		○鳴	鳴			
		チッチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>			鳴			
		アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○				
			ミヤマアワフキ	<i>Peuceptelys nigroscutellatus</i>		○		○	
		コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ	<i>Euscartopsis assimilis</i>	○	○			
			ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○			
		マエジロオオヨコバイ		<i>Kolla atramentaria</i>		○			
		ツマグロオオヨコバイ		<i>Bothrogonia ferruginea</i>			○		
		ブチミヤクヨコバイ		<i>Drabescus nigrifemoratus</i>			○		
		リンゴマダラヨコバイ		<i>Orienteus ishidae</i>			○		
		オビヒメヨコバイ		<i>Naratettix zonatus</i>				○	
		アブラムシ科		ワタアブラムシ	<i>Aphis gossypii</i>		○		
				イタドリオマルアブラムシ	<i>Macchiatella itadori</i>				○
		サンガメ科	アカサンガメ	<i>Cydnocoris russatus</i>	○				
			オオトビサンガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○				
			ヤニサンガメ	<i>Velinus nodipes</i>	○				
		カスミカメムシ科	シマサンガメ	<i>Spheganolestes impressicollis</i>		○			
			オオクロセダカカスミカメ	<i>Proboscicocoris varicornis</i>			○		
		ゲンバウムシ科	ブチヒゲクロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i>			○	○	
			アワダチソウゲンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>	○	○			
		ツノカメムシ科	トサカゲンバイ	<i>Stephanitis takeyai</i>			○	○	
			セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			○		
		カメムシ科	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>	△				
			トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○		○		
ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>		○		○				
シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>					○			
ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>				○				
ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>				○				
トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>					△			
シモフリクチフトカメムシ	<i>Eocanthecona japonicola</i>				○				
マルカメムシ科	マルカメムシ		<i>Megacopta punctatissima</i>				○		
ナガカメムシ科	ムラサキナガカメムシ		<i>Pylorus colon</i>		○	○			
	コバネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>			○				
ホソヘリカメムシ科	チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i>			○				
	ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i>				○			
ヘリカメムシ科	オオヘリカメムシ	<i>Molipteryx fuliginosa</i>	○		△	○			
	ハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus dilatatus</i>	○						
	ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia opaca</i>		○					
	ハリカメムシ	<i>Cletus rusticus</i>			○				

表1-2. 和泉葛城山山頂付近において2008年7月から10月にかけて確認された昆虫のリスト2

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	7月10日	7月30日	9月10日	10月9日	
コウチュウ目	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>	○				
		オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes buchani</i>			○		
		コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>		○			
	シデムシ科	クロボシヒラタシデムシ	<i>Oiceoptoma nigropunctatum</i>	○				
		オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>			○		
	ハネカクシ科	サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>		○			
		コアリガタハネカクシ	<i>Megalopaederus lewisi</i>			○	○	
	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformoratus</i>		○			
		オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis</i>			○		
	コガネムシ科	カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma dichotoma</i>				△	
		マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	○	○			
		セマダラコガネ	<i>Blitopertha orientalis</i>	○				
	ホタル科	ムラサキツヤハナムグリ	<i>Protaetia cataphracta</i>		○			
		オバボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>	○				
		オオオバボタル	<i>Lucidina accensa</i>	○	○			
	ケシキスイ科	Epuraea属の一種	<i>Epuraea</i> sp.				○	
	テントウムシ科	ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	○				
		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	○	○	○		
	ゴミムシダマシ科	キマワリ	<i>Plesioththalmus nigrocyaneus</i>	○	○			
		クロホシテントウゴミムシダマシ	<i>Derispia maculipennis</i>	○	○			
	カミキリムシ科	ニセシラホシカミキリ	<i>Pareutetrappa simulans</i>		○			
	ハムシ科	タマツツハムシ	<i>Adiscus lewisii</i>	○				
		クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis</i>	○				
		ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>		○	○		
		ドウガネツヤハムシ	<i>Oomorphoides cupreatus</i>				○	
		アカガネサルハムシ	<i>Acrothinium gaschkevitchii</i>	○				
		ムナゲクロサルハムシ	<i>Basilepta hirticollis</i>	○				
カミナリハムシ		<i>Altica cyanea</i>		○				
ヒゲナガウスバハムシ		<i>Stenoluperus nipponensis</i>	○					
キイロタノミハムシ		<i>Sphaeroderma unicolor</i>		○				
ルリマルノミハムシ		<i>Nonarthra cyanea</i>				○		
アラハダトビハムシ		<i>Zipangia lewisi</i>	○					
オトシブミ科		カシルリオトシブミ	<i>Euops splendidus</i>	○				
		ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>				○	
ゾウムシ科		トゲアシゾウムシ	<i>Anosimus decoratus</i>		○			
		トゲアシゾウムシ	<i>Anosimus decoratus</i>		○			
ハエ目		アブ科	ウシアブ	<i>Tabanus trigonus</i>		○	○	
	ムシヒキアブ科		シオヤムシヒキ	<i>Promachus yesonicus</i>		○		
	ハナアブ科	ヒサマツムシヒキ	<i>Tolmerus hisamatsui</i>			○		
		オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	○		○		
		アシトハナアブ	<i>Helophilus virgatus</i>		○			
		ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>		○	○		
		ナミホシヒラタアブ	<i>Eupeodes bucculatus</i>			○		
		キイロナミホシヒラタアブ	<i>Syrphus vitripennis</i>			○		
		オオオビヒラタアブ	<i>Megasyrphus annulipes</i>				○	
		ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>			○		
		クロヒラタアブ属	<i>Betasyrphus</i> sp.		○			
		ベッコウバエ科	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>			○	
	フンバエ科	ヒメフンバエ	<i>Scatophaga stercoraria</i>	○				
	クロバエ科	ツマグロキンバエ	<i>Stomorhina obsoleta</i>	○	○	○		
	チョウ目	アゲハチョウ科	カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i>		○		
			キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>			△	○
		シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>	○			
スジグロシロチョウ			<i>Pieris melete</i>		○	○		
キチョウ			<i>Eurema hecabe hecabe</i>		○		○	
タテハチョウ科		ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>			○		
		クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>		○	○		
		ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>			○		
		ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>		○			
		アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	○		○	○	
		キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>				○	
		サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>	○	○			
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>				○	
テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>	○		○	○			

表1-3. 和泉葛城山山頂付近において2008年7月から10月にかけて確認された昆虫のリスト3

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	7月10日	7月30日	9月10日	10月9日	
チョウ目	シジミチョウ科	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	○	○			
		ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>				○	
		ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica japonica</i>	○				
		ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>		○			
	セセリチョウ科	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>			○		
		キマダラセセリ	<i>Potanthus flavum flavum</i>		○			
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>			○		
	アゲハモドキ科 ドクガ科	キンモンガ	<i>Psychostrophila melanargia</i>			○		
		ドクガ	<i>Euproctis subflava</i>		△			
		ニワトコドクガ	<i>Topomesoides jonassii</i>		○			
		ゴマフリドクガ	<i>Euproctis pulverea</i>				△	
		ヤママユガ科	オオミズアオ属	<i>Actias</i> sp.	△	△		△
	ハチ目	ヒメバチ科	Netelia属の一種	<i>Netalia</i> sp.			○	
			ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	<i>Campsomeris prismatica</i>			○
		スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>			○	
キロスズメバチ			<i>Vespa similima xanthoptera</i>		○	○		
アリ科		オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia japonica</i>				○	
		テラニシシリアゲアリ	<i>Crematogaster teranishii</i>				○	
		ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>	○	○		○	
		クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>	○	○	○	○	
		クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>		○	○	○	
		ヒゲナガケアリ	<i>Lasius productus</i>	○				
		クサアリモドキ	<i>Lasius spathepus</i>		○		○	
		トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>			○		
		アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>			○	○	
		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>				○	
		ムネボソアリ	<i>Temnothorax congruus</i>				○	
コハナバチ科 ミツバチ科	Helictus属の一種	<i>Halictus</i> sp.			○			
	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>			○	○		
	コマルハナバチ	<i>Bombus ardens ardens</i>			○	○		
	トラマルハナバチ	<i>Bombus diversus diversus</i>			○			

謝辞

澤田義弘、松田勲、向井康夫、岡田恵太郎の各氏には、標本の同定およびデータ整理に協力していただいたので、ここに謝意を表す。

引用文献

- 大阪府（2000）「大阪府における保護上重要な野生生物 ー大阪府レッドデータブックー」. 442pp.
- 黒子 浩（1997）和泉葛城山頂上の蛾類（1）. 貝塚市自然環境調査報告書（1996年度）：1-10.
- 黒子 浩（1998）和泉葛城山頂上の蛾類（2）. 貝塚の自然 第1号：1-2.
- 黒子 浩（2000）和泉葛城山頂上の蛾類（3）. 貝塚の自然 第2号：1-2.
- 黒子 浩（2001）和泉葛城山山頂付近の蛾類構成と考察. 貝塚の自然 第3号：1-20.
- 黒子 浩（2002）和泉葛城山山頂付近の蛾類の寄主植物の追加. 貝塚の自然 第4号：36.
- 松下宏幸（2009）和泉葛城山での地上徘徊性昆虫調査報告 ーヒメキマダラウマ *Neotachycines furukawai* の大阪府初記録. 貝塚の自然 第12号：109-113.
- 保田淑郎・天満和久・天満奈央（2003）和泉葛城山の蛾類相. 貝塚の自然 第5号：78-81.
- 和歌山県（2001）「保護上重要なわかやまの自然 ー和歌山県レッドデータブックー」. 428pp.